

I. 研修について

近年患者数の増加が著しい糖尿病は予備軍を含めると2,500万人に及んでいる代表的 common disease の1つである。この糖尿病は日本人死因の上位を占める動脈硬化性疾患の基礎として重要であり、循環器内科、腎臓内科、脳神経外科、神経内科、皮膚科、整形外科、血管外科、眼科など多くの科の治療とかかわりを持っている。また甲状腺疾患も潜在性患者を含めると2,400万人と試算されおり、甲状腺機能異常は糖尿病と同様に多くの科の治療に影響している。臨床医として活躍するためにはこれら common disease を正しく診断し治療できることが不可欠である。

内分泌・代謝内科での研修は、臨床医の基礎として重要な意味を持つばかりでなく、内分泌学の特質上 medical science の基礎知識を学ぶという極めて大切で有益なことにも繋がる。

当科での研修は上記の観点に基づき、一症例、一症例丁寧に掘り下げ、目的を達成できるようプログラムしている。

II. 研修の到達目標

内分泌・代謝疾患の中で日常的に遭遇することの多い糖尿病(1型、2型、緩徐進行1型など)、甲状腺疾患(バセドウ病、慢性甲状腺炎、甲状腺良性腫瘍、甲状腺癌など)、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症、内分泌・代謝疾患に関係した高血圧、骨疾患、慢性腎臓病、さらには最近CT検査の普及によってしばしば発見される副腎偶発腫や下垂体疾患、副甲状腺疾患など割合頻度の高い内分泌疾患などの診察法、検査計画の立案とその実施方法を研修指導医の指導・監督のもとに習得する。さらにこれに基づき診断を確定し、診療方針を立てそれを実施する方法を習得し、臨床医として必要な内分泌・代謝疾患の基礎的診療能力を身につける。経験症例によっては学会発表経験を持つこともできる。

III. 医師数[うち臨床研修指導医数] (平成29年3月現在)

・常勤医師 4名 [2名]

IV. 学会認定医・専門医・指導医 (平成27年2月現在)

日本内科学会認定内科医(3名)・総合内科専門医(1名)・指導医(2名)

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医(1名)・指導医(2名)

日本糖尿病学会糖尿病専門医(2名)・指導医(1名)

日本医師会認定産業医(1名)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医(1名)・指導医(1名)

V. 施設認定

日本内科学会認定医制度教育病院

日本糖尿病学会認定教育施設

日本内分泌学会認定教育施設